



美豆だより

特別号

平成28年3月吉日
京都市立美豆小学校
校長 高嶋 登

美豆小学校HP
QRコード



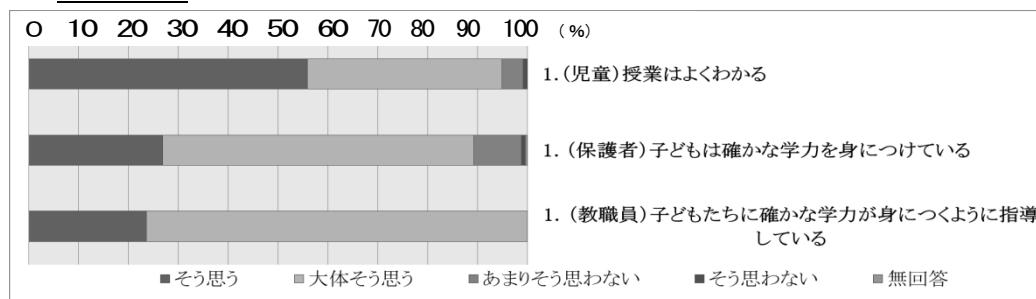
梅花の候 皆様におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

今年度第2回目の学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

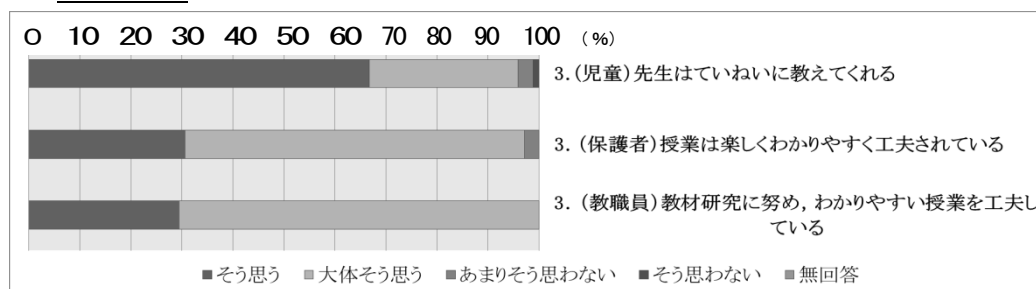
後期学校アンケートにも、多くの保護者の方々に協力いただきました。ありがとうございました。遅くなりましたが、ここにその結果を報告させていただきます。

1. 学力面について

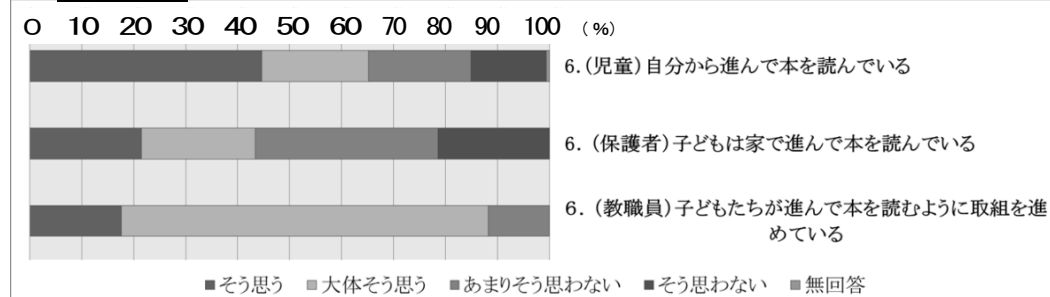
① 学力について



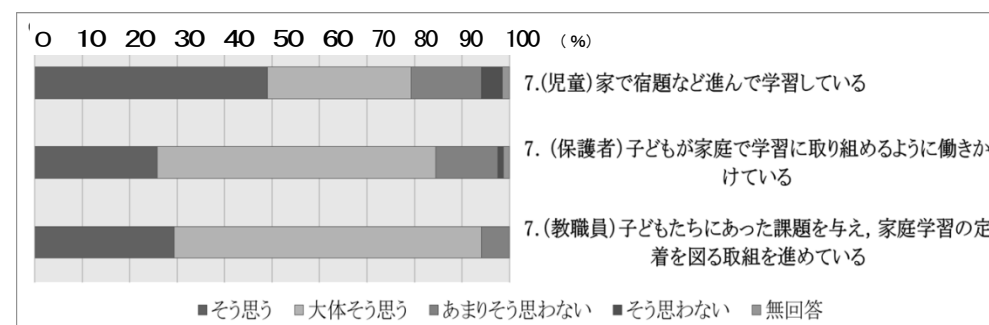
② 授業について



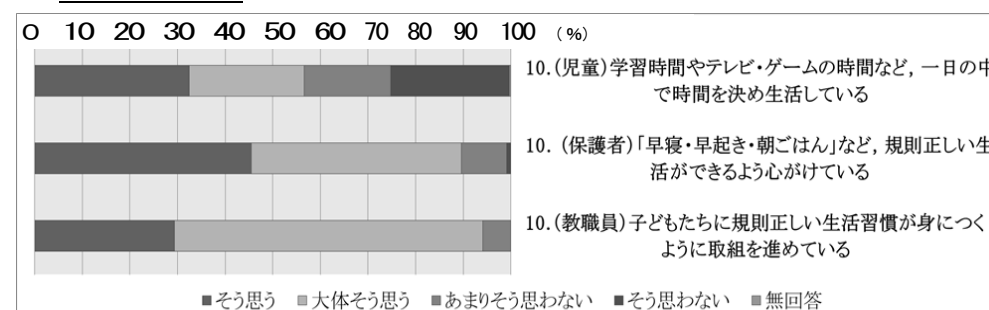
③ 読書について



④ 家庭学習について



⑤ 生活リズムについて



★「学力面」における前期学校評価アンケートとの比較を通した分析

学力の定着と授業理解において、保護者の「そう思う」「大体そう思う」の合計値において9%増加していました。学校の取組を評価していただいていると考え、今後も授業改善に取り組んでいきます。

読書について保護者と教職員において「そう思う」の数値が微増しています。「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が3～4%微増しています。これは、読書習慣が定着している子が増加している反面、読書への意識が低下している所が見られます。図書館の来室者を増加させ、読書に対する意識を向上する取組を進めていかなければなりません。学習と連動した取組を進めていきます。

家庭学習について保護者の「そう思う」の数値が微増しています。また、児童の「そう思わない」の数値が僅かながら減少しています。保護者・教職員の意識にも同様に「そう思わない」の数値の減少が見られます。家庭学習の習慣が定着してきていると考え、今後も粘り強く取組を進めていきます。

生活習慣において、児童の「そう思う」が減少し、「あまりそう思わない」が4%増加しています。保護者・教職員では、「そう思う」が4～18%増加し、「あまりそう思わない」の数値も微増していました。できていると感じる児童が減少し、大人の規則正しい生活習慣への働きかけは減少しているということが言えます。

家庭学習と生活習慣の傾向は類似していました。寒くなり室内で過ごすことが増える季節ですが、生活リズムの崩れは家庭学習に影響します。1年間を通して子ども達への細やかな目配りと声かけをしていきたいと思います。ご家庭のご協力をよろしくお願いします。

【家庭からのご意見【一部抜粋】】

- 担任の先生は本当に子どもが好きなんだなぁということがよくわかるので、子どもも安心して楽しく学校に通っています。
- 問題の言い回しが変わった途端に解けなくなる時がある。読解力を付けるために国語の授業の大切さを感じました。

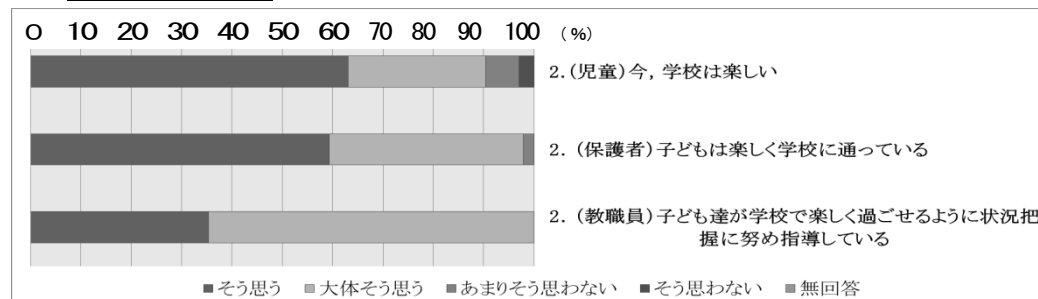
●元気にあいさつをする子が増えたと旗当番をしていて思います。

●授業参観の時、教室内の保護者の私語、廊下での雑談の声の大きさ等、学習妨害に当たるかと感じた。現状では、あまりにもひどく、参観している方にも児童にも不利益な行事になります。改善・対策を求めます。

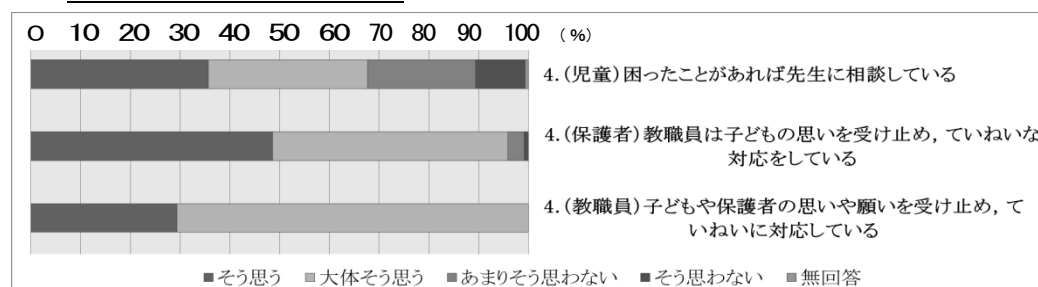
内容を踏まえ今後の学校運営に生かしていきたいと思います。今後ともご理解・ご支援いただきますようお願いいたします。

2. 生活面について

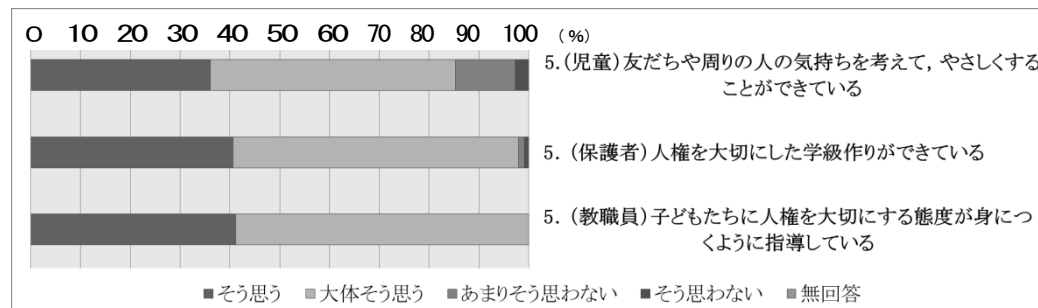
① 学校の楽しさについて



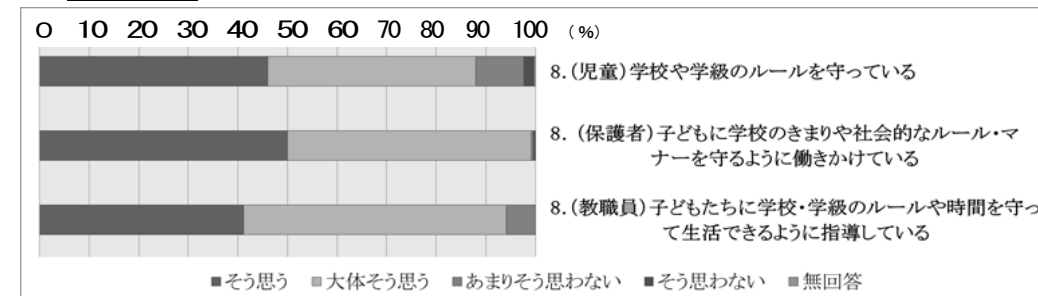
② 思いや願いの受け止めについて



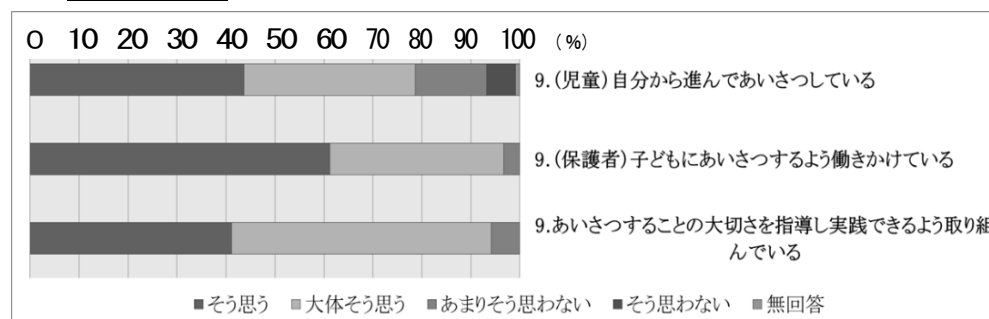
③ 人権(思いやり)について



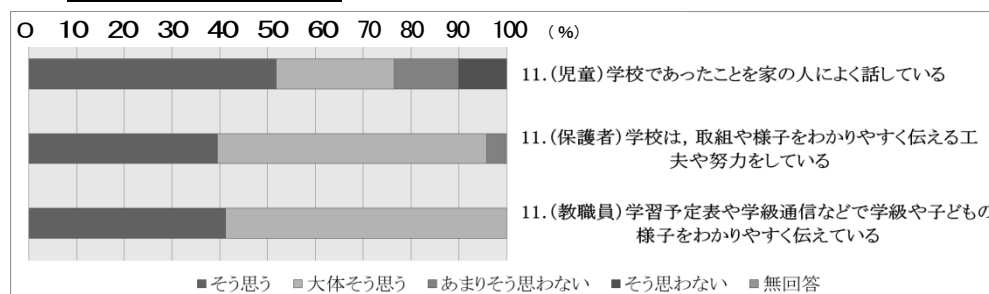
④ きまりについて



⑤ あいさつについて



⑥ 学校・家庭との連携について



★「生活面」における前期学校評価アンケートとの比較を通した分析

学校の楽しさでは、90%以上の児童が学校は楽しいと回答しています。また、「そう思わない」の数値が減少しました。保護者・教職員の「そう思う」の数値が5～13%増加しています。また、思いや願いの受け止めでも、同様の傾向が見られました。これは、日ごろの学校の取組を保護者が理解して、評価してくださっていることと考え、これから児童と教職員と保護者がつながりを大切にして、取組を進めたいと思います。

人権(思いやり)・ルールきまり・あいさつについて児童の「そう思う」の数値が僅かながら減少し、「あまりそう思わない」の数値が微増しました。また、保護者・教職員の意識において「そう思う」5～18%増加し、「あまりそう思わない」の数値も増加しました。これは、道徳教育を推進する中で人権に対する意識が高まる一方で自分の行いに対する見方が厳しくなり、保護者や教職員においては人権感覚の高まりへの期待感が数値に現れていると考えられます。子どもを褒める伸ばす気持ちを大切に自尊感情が高まるよう取組を進めていきます。

家庭との連携について保護者の「そう思う」が7%増加し、「あまりそう思わない」が減少しました。学校の様子を伝える努力を評価していただいていると考え、今後もおたよりやHPなどで、わかりやすく伝えできるよう取組を進めていきます。ご家庭でも学校の様子を話題にいただき、親子の団楽の時間をこれからも大切にしてください。

3. 「学校運営協議会」による学校関係者評価（外部評価）

【体験活動を重視する】

・体験活動を重視する体制は今後も大切にしたい。体験の中で子ども達は多くのことを学ぶ。また、自分たちを大切に思ってくれている人の前での成功体験には大きな教育効果がある。組体操の取組には多様な意見があるが、大切にしたい取組なので、安全面に十分配慮して達成感を感じられるような取組として続けてほしい。

【学力向上について】

・良いお手本を見て育ってきた低学年が学力面で力を発揮してきている。これまでの取組と学校の変容を直視してきたが、その成果だと感じている。これから先生方の熱い思いと子どもへの配慮をお願いしたい。子ども達は、学校の中でよくあいさつをするようになったように、これからも学力につながる土壌を育んでほしい。